授業実践（詳細版）

「授業実践（詳細版）」の内容は、以下のとおりです。

１　単元設定の理由
２　単元目標
３　単元計画
４　本単元で引き出す「三つの学び」の姿と支援の方向性（※１）
５　事例対象児への授業づくりの実際
⑴　事例対象児の本単元に係る実態
⑵　事例対象児の単元目標
⑶　事例対象児の焦点を当てた授業の目標及び評価規準
⑷　焦点を当てた授業の展開（※２）
⑸　環境設定（及び役割分担）
⑹　焦点を当てた授業の評価
ア　事例対象児の授業の目標について
イ　事例対象児への支援の手立てについて
６　単元の評価
⑴　単元目標について
⑵　単元を通した児童生徒の成長について
７　授業づくりを終えて

【※１について】

「３　単元計画」で示した主たる学習活動ごとの「重視する学びの姿」について、「子どもの思考」「学びの姿」「支援の方向性」を示しています。

・「子どもの思考」…引き出したい子どもの思いや考え
・「学　び　の　姿」…補助資料１の該当する「学びの姿」
・「支援の方向性」…補助資料２の「Ｂ　単元計画」の該当するポイント（「Ｂ－（小文字アルファベット）－（数字)」）と考えられる支援方法

【※２について】

焦点を当てた１単位時間の授業の展開について、「学習活動」「重視する学びの姿」「支援の手立て」を示しています。

・「学　習　活　動」…子どもの活動内容
・「重視する学びの姿」…それぞれの活動内容における、引き出したい具体的な子どもの姿
・「支　援　の　手　立　て」…「重視する学びの姿」を引き出すための具体的な支援の手立てと、補助資料２の「Ｃ　授業計画」の該当するポイント（「Ｃ－（小文字アルファベット）－（数字)」）

【小学部　３年】
単元「ジュースをかってパーティーをしよう！」

実施期間：令和３年６月 23 日～９月 24 日（全 13 時間）

１　単元設定の理由

本学級は、男子１名、女子３名、計４名で構成されている。どの児童も、様々な活動に興味・関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。また、一人が始めた遊びに他の児童が次々と加わってみんなで遊んだり、互いの言動をまねるうちに遊びに発展したりするなど、互いの行動に関心を持っている。しかし、学習活動に取り組む際は、教師を介して友達と関わることが多く、友達を意識して活動することは少ない。また、教師と一緒に制作に取り組んだり、個々に係活動に取り組んだりする経験はあるが、友達と意見を出し合って物事を決める経験や、一つの目標に向かって役割分担をして活動する経験は少ない。活動に見通しを持ち、友達と目的を共有し、協力して一つの役割に取り組むことが課題である。

本単元では、自動販売機とパーティーを取り上げる。自動販売機は、本学級の多くの児童にとって身近にあるもので、所定のお金を入れてボタンを押せば、飲みたいジュースが出てくる魅力的なものである。また、パーティーは、誕生日会やクリスマス会などの経験からイメージしやすく、人と一緒に活動することへの興味・関心が高い本学級の児童にとって、取り組みやすい活動である。「ジュースをつぐ」「コップを配る」などの活動は、家庭の役割を担うことにつながりやすい。さらに、様々な準備が必要であることから一人一人に応じた活動を設定しやすく、友達と目的を共有したり協力したりしやすい活動である。そこで、ジュースを買う係とコップなどの準備をする係に分かれて活動し、それぞれの役割を果たしてパーティーを成功させる体験を通して、やり遂げた手応えを感じるとともに、互いの係への感謝の気持ちを持ったり、友達との協力を実感したりすることができるようにしたい。また、準備の流れを工夫し、二人組での活動を設定することで、友達を意識して同じ目的のために活動に取り組む、協働的な行動を引き出したい。そのような体験を通して、友達と協力する楽しさや良さを味わうとともに、「誰かの役に立っている」「誰かの役に立ちたい」という気持ちを育てたいと考え、本単元を設定した。

２　単元目標

〇自動販売機でジュースを買ったり、パーティーの準備をしたりする。（知識及び技能）
〇教師や友達と計画したり、一緒に活動したりする。　　（思考力、判断力、表現力等）
〇友達と一緒に活動する楽しさを味わいながら、進んで役割を果たそうとする。
（学びに向かう力、人間性等）

3　単元計画

学習活動	重視する学びの姿			時数
	主	対	深	
１　「おたのしみじどうはんばいき」をよもう ⑴　オリジナル仕掛け絵本を読む。 ⑵　自動販売機の模型で遊ぶ。 ⑶　自動販売機を探しに行くことを知る。	◎	○		１
２　じどうはんばいきをみつけよう ⑴　自動販売機を探しに行く。 ⑵　先生がお茶を買う様子を見る。 ⑶　振り返りをする。	◎		○	２
３　ジュースをかってパーティーをしよう ⑴　準備物や係を知る。 ⑵　係を話し合って決める。 ⑶　**パーティーをする。** ⑷　**振り返りをする。** →係を交代しながら、計４回パーティーを行う。(**３回目**)	○	○	○	９ **焦点を当てた授業 その６・７**
４　みんなにおしえよう ⑴　パーティーを振り返る。 ⑵　ジュースの買い方を教える準備をする。 ⑶　友達に教える。	○		○	１

※太字は、焦点を当てた授業を示す。

4　本単元で引き出す「三つの学び」の姿と支援の方向性

学習活動１：「おたのしみじどうはんばいき」をよもう	
子どもの思考	［主体的な学び］ ・自動販売機って面白い！使いたい！
学びの姿	補助資料１：興味・関心や期待感を持つ
支援の方向性	補助資料２：［Ｂ－ａ－②］ ・体験を通して楽しさを感じられるよう、仕掛け絵本や自動販売機の模型を用いる。
子どもの思考	［対話的な学び］ ・友達のやり方をまねしてみよう。
学びの姿	補助資料１：互いの活動を見合う
支援の方向性	補助資料２：［Ｂ－ｂ－②］ ・一人ずつ行い、友達に注目しやすくしたり、子どもの行動を言語化して伝えたりする。

学習活動２：じどうはんばいきをみつけよう	
子どもの思考	［主体的な学び］ ・自動販売機はどこにあるのかな？
学びの姿	補助資料１：目標や目的意識を持つ
支援の方向性	補助資料２：［Ｂ－ａ－④］ ・「自分たちで探す」という気持ちを持てるような教具を使用する。
子どもの思考	［深い学び］ ・お茶はどうやって買うのかな？ ・自分の好きなジュースを買いたいな。
学びの姿	補助資料１：知識や技能を相互に関連付けたり、活用したりする 補助資料１：課題を見付ける
支援の方向性	補助資料２：［Ｂ－ｃ－③］ ・自動販売機の模型の操作方法を思い出せるようにする。 補助資料２：［Ｂ－ｃ－②］ ・飲みたいジュースがあったことを思い出せるよう、振り返りの仕方を工夫する。
学習活動３：ジュースをかってパーティーをしよう	
子どもの思考	［対話的な学び］ ・みんなで協力すると楽しいな。 ・係の仕事をして良かったな。
学びの姿	補助資料１：友達と協働する
支援の方向性	補助資料２：［Ｂ－ｂ－①③］ ・二人組の係を設定し、友達の動きを意識して取り組めるよう、手順書を工夫する。 ・それぞれの係が行ったことが分かるように、パーティーの流れや言葉掛けの仕方を工夫する。
子どもの思考	［深い学び］ ・どうしたらできるかな。 ・できるようになったよ。
学びの姿	補助資料１：課題解決に向けて活動する 補助資料１：自分の成長を実感する
支援の方向性	補助資料２：［Ｂ－ｃ－②］ ・自分で考えて行動しようとするときは、待つ姿勢を心掛ける。 補助資料２：［Ｂ－ｃ－④］ ・児童一人一人の活動を動画で振り返り、良かったところを称賛する。

学習活動４：みんなにおしえよう	
子どもの思考	［深い学び］ ・みんなにも教えたいな。 ・どう言ったら伝わるかな。
学びの姿	補助資料１：自分の考えをまとめる
支援の方向性	補助資料２：［Ｂ－ｃ－②］ ・誰に教えたいか、教師と相談する場面を設ける。 ・教える内容の手掛かりとなる写真や教具を準備する。

５　事例対象児Ａさんへの授業づくりの実際

学習活動３「ジュースをかってパーティーをしよう」における、Ａ さんの事例を紹介する。

⑴　Ａさんの本単元に係る実態

○学級内で役割を担うことが好きで、繰り返し取り組むことで手順を覚える。興味・関心があることには、難しいことでも自分でしてみようとするが、その一方で、一人でできることでも教師の援助を求めることが多い。また、自動販売機を使用した経験はない。

○イラストや文字を見ることや、友達の活動を見ることで、することが分かる。また、活動に対する見通しが持てると、意欲的に活動する。友達と目的を共有して、一つの活動に取り組む経験はない。

○好きなことや自信を持っていることには、積極的に取り組む一方で、初めての活動には不安を感じやすく、消極的になりがちである。しかし、教師や友達と一緒に活動することで安心し、活動に取り組んだり、自発的に教師に援助を求めたりする。

⑵　Ａさんの単元目標

○手順を確認しながら、自動販売機でジュースを買ったり、教室でコップや氷などの準備をしたりする。（知識及び技能）

○パーティーをするために必要なことが分かり、教師や友達に思いや考えを伝えたり、自分で考えて活動したりする。（思考力、判断力、表現力等）

○友達と一緒に活動することの楽しさを味わい、同じ係になった友達と一緒に、進んで役割を果たそうとする。（学びに向かう力、人間性等）

⑶　Ａさんの焦点を当てた授業の目標及び評価規準（９・10／13時間）

友達と二人で、コップ係の仕事に取り組む。

・コップ係がすることが分かり、手順に沿って行っている。（知識・技能）
・状況を見て、コップ係の仕事をしている。（思考・判断・表現）
・友達に合わせたり働き掛けたりしながら、コップ係の仕事をしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

⑷　焦点を当てた授業の展開

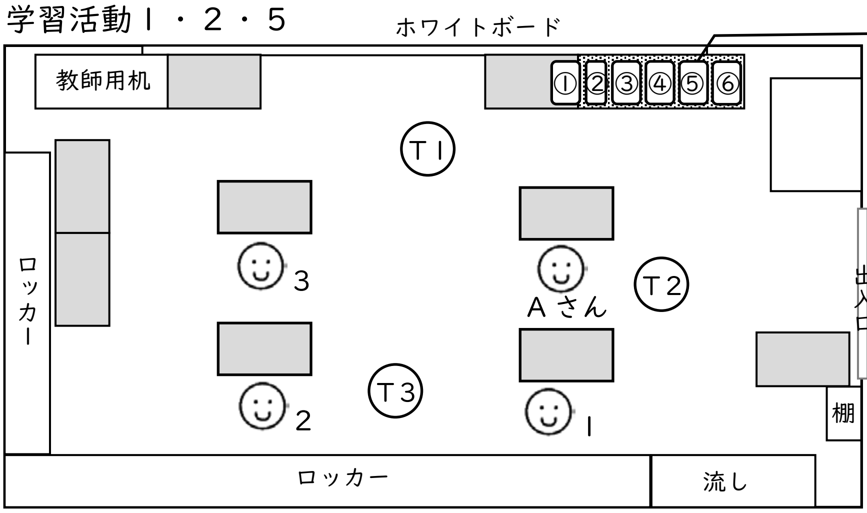
※「支援の手立て」の下線部は、児童生徒の意識を向けたいポイントを示す。　★Aさんへの支援

学習活動	重視する学びの姿	支援の手立て
1　ジュースを買って、パーティーをすることを思い出す。	主：学習内容を思い出し、期待感を持つ。	・パーティーをすることを思い出せるように、カレンダーの「パーティーシール」を示す。　[C－a－①]
2　自分の係を知る。	主：係の活動内容を知り、期待感を持つ。	・役割を分かりやすくするとともに、期待感を持てるよう、係ボードや道具、エプロン等を示す。[C－a－①④] ・自分の行う活動が意識できるように、何の係をするか発表する場を設ける。　[C－a－③]
3　係の活動を行う。 コップ係：下線はAさん ①机を動かす。(二人) ②台拭きをして、トレイを配る。 ③コースターとストローを配る。 ④飾り作りの道具と片付けトレイを用意する。 ⑤飾りを作る。(二人) ⑥氷を取りに行く。(二人) ⑦コップに氷を入れ、配る。	対：友達の動きを見て確認したり、友達の活動を待ったり、活動を促したりする。 深：できていないことや足りないものに気付き、自分で解決しようとする。	★二人一組で仕事をすることが分かるように、コップ係の手順書(「お仕事ボード」)を提示する。　[C－b－①] ★活動の順番を意識できるように、「お仕事ボード」の見方を教える。　[C－b－④] ・自発的な言動を待つ。　[C－c－⑤] ・使用する道具を、手順に沿って、整理して置く。　[C－c－⑥]
4　パーティーをする。		
(1)　パーティーをする。	深：係の仕事をしてよかったと思う。	・互いに感謝の言葉を伝えるようにする。　[C－c－③]
⑵　突然の来客に対応する。	深：お客さんの机やコップ等が必要なことに気付き、自分たちで準備する。	★状況に気付くような発言をしたり、反応を待ったりする。　[C－c－⑤]
5　学習のまとめをする。	対：友達の活動にも注目する。 深：自分の成長に気付く。	・友達と協力したことを感じられるように、一人一人の活動を動画で紹介しながら、頑張ったところを称賛する。　[C－b－⑦]　[C－c－③]

	主：「もっとやりたい」と更に意欲を高める。	・カレンダーを使って次時の活動を伝える。[C－ａ－⑥]

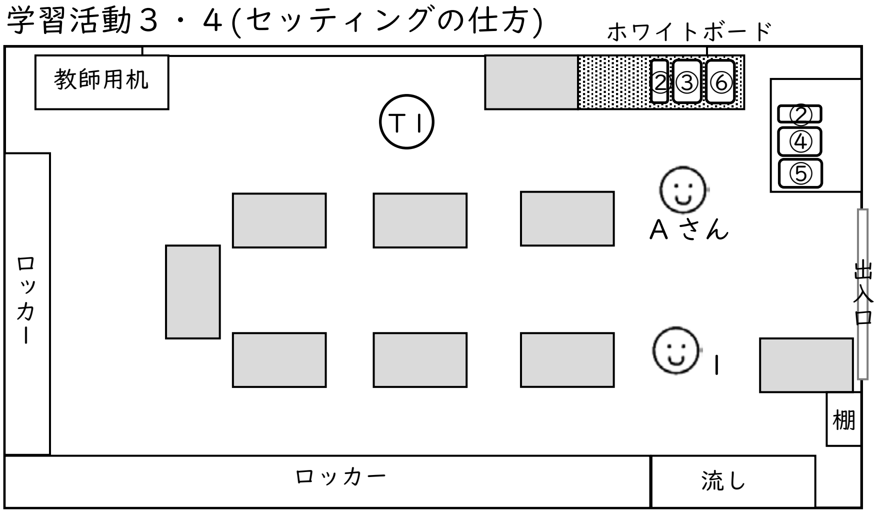
(5)　環境設定及び役割分担

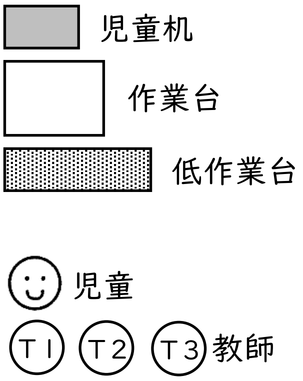
学習活動１・２・５



①財布・ナップサック・エプロン
②トレイ
③氷運搬用籠
④水切り籠・ナイロン袋
⑤コースター･ストロー･トング・布巾
⑥飾り作りセット（画用紙・ひも・ビーズ・２つ穴パンチ・パンチ用補助具）

学習活動３・４(セッティングの仕方)





〔コップ係〕

Aさん…台拭き・ストロー・片付けトレイ・ひも通し（飾り作り）・氷３個

☺１…トレイ・コースター・飾り作りの道具・パンチ（飾り作り）・コップ

T１

〔ジュース係〕

☺２・☺３…相談して決めた２種類のジュースを、１本ずつ自動販売機で買う

T２　T３

(6)　焦点を当てた授業の評価

ア　Aさんの授業の目標について

・同じコップ係の友達と一緒に、「お仕事ボード」で工程を確認しながら、二人組での活動に取り組んだ。一つの仕事を終えると、自分でカードを外し、次の仕事を確認した。また、二つの役割に順番が決まっている仕事では、どちらが先に行うのかを理解して、正しい順番で行った。（知識・技能）

・友達が机を逆向きに置いていることに気付いて、「逆さまになってるよ。」と言いながら直したり、友達がまだコースターを配っていない机の前に立って、友達に「〇〇ちゃん、ここだよ。」と声を掛けて教えたりした。また、来客時には、「机がないな。」などの教師の発言から状況に気付き、お客さんがジュースを飲むために必要なものを、考えながら準備した。（思考・判断・表現）

・椅子を運ぶ友達の動きに合わせて机を動かしたり、友達に「オッケー。」と声を掛け、確認したりしながら動く場面が多く見られた。また、自分が机を拭いた後、友達がトレイを配るかどうかに注目し、できたときには「オッケー。」と声を掛けることもあるなど、一緒に係の仕事をすることを、互いに楽しみながら取り組んだ。（主体的に学習に向かう態度）

イ　A さんへの支援の手立てについて

・パーティー用のエプロンやコップ、コースター、ストローなどを使用したことは、A さんに「やってみたい」という気持ちを持たせ、「主体的な学び」の姿を引き出すことにつながった。カレンダーを見ることで、活動の見通しや意欲を持つことをねらったが、A さんが注視することはなく、支援の手立てとして有効だったとは判断しにくい。

・二人組の仕事を設定したことで、相手の動きを見たり、声を掛け合ったりする姿が自然に引き出され、「対話的な学び」の姿を引き出すことにつながった。しかし、学習のまとめでは、自分たちの活動を振り返ることができるように動画を使用したが、友達と協力したことの良さが実感できたか、判断が難しかった。友達と協力している場面への注目の促し方や、見た後に再現して更に確認したりするなど、振り返りの工夫が必要であった。

・教師の、状況に気付くような発言と自発的な行動を待つ姿勢は、A さんが身に付けたことを基に考える姿を引き出した。また、活動の理解が深まった後に、「お客さんが来る」という偶発的な場面を設定することで、課題解決に向けて活動する「深い学び」の姿を引き出すことにつながった。

6　単元の評価

⑴　単元目標について

・欠席のため１名はできなかったが、他の児童は、自動販売機でジュースを買うことができた。また、授業が１週間ほど空いたことで、具体的な手順を忘れていることがあったが、手順書等を手掛かりにパーティーの準備をした。（知識・技能）

・手順書の見方や二人組の活動の仕方が分かり、互いの行動を確認したり、教え合ったりして、パーティーの準備をした。（思考・判断・表現）

・教師や友達とパーティーをすることを楽しみにしながら、自分の係の役割を進んで果たそうとする姿が、回を重ねるごとに増えた。（主体的に学習に取り組む態度）

⑵　単元を通した児童の成長について

本単元を通して、児童が友達と協力して一つのことをやり遂げる経験ができ、楽しんで活動する様子が見られた。係の仕事を通して、「友達のためにしたい」「私がやりたい」という気持ちが育ったと考えられる。単元の期間中に、他の授業場面でジュー

スを飲む場を設けると、児童同士で教え合って必要な道具を準備した。A さんは、教師を「一緒に飲もう。」と誘い、「いらっしゃいませ。」と言いながら、教師のためにトレイやコースター、ストローを準備してもてなした。また、友達の机にトレイが置かれていないことに気付いた児童は、代用となる物を探して渡した。

本単元終了後の単元「お店屋さんをしよう」で、二人組の係や制作工程を分担し、協力して仕上げる活動を設定すると、自分たちで手順書を確認しながら取り組んでいた。お店の準備では、手順書を見て必要な道具ややり方を理解し、効率的に進められるよう、友達の行動を確認しながら、自分が何をすればいいか考えて取り組む姿が見られた。また、お店屋さんの役割を理解してお客さんをもてなすなど、本単元での経験を生かし、役割を果たすことを楽しむ姿が見られた。さらに、ある児童は、休日に外出した際に、自動販売機を見付けると母親に「お金を頂戴。」と言ってお金をもらい、自分と母親の飲み物を自動販売機で買うなど、学んだことを他の場面や日常生活に生かす姿が見られた。

課題としては、パーティーの２回目と３回目の間が１週間程度空いたことで、具体的な手順を忘れていたことが挙げられる。子どもの思考が途切れないようにするための、単元の展開方法への配慮や手立ての工夫が必要である。

7　授業づくりを終えて

本単元を通して、友達の動きを見て、どこに椅子を運べばいいか考えて行動するなど、自分で考えて行動している姿が多く見られた。単元を通してねらいたい「子どもの思考の流れ」を明確にしたことで、引き出したい「学びの姿」も明確になり、単元計画や授業計画において、引き出したいとねらった「三つの学び」の姿は、十分実現できたと考える。特に、A さんは、本単元中、持てる力を十分に発揮し続けることができた。しかし、カレンダーを用いることで、活動への期待感を持つことや見通しを持つことなどをねらったが、期待する学びの姿を引き出せたかどうか、判断が難しい場面があった。カレンダーはこれまでに使ったことがなかったため、興味・関心が薄かったことが考えられる一方で、A さんは、教師があまり見ていないと感じることでも説明をよく聞いて理解していることが多い。評価の難しさを感じるとともに、「学びの姿」を見取る力の大切さを感じた。

また、一つ一つの授業においては、「重視する学びの姿」を引き出すことを意識することで、単元目標の達成につなげることができた。例えば、パーティー用の特別なエプロンやコースター、トレイなどの準備物が、活動意欲の向上につながり、効果的に「三つの学び」を引き出すことができた。また、教具は、「『学びの姿』を引き出すために必要なものは何か」という視点で、作成した。例えば、「自動販売機でジュースを買う」ことに対しては、自動販売機でのジュースの買い方の手順書を作るのではなく、「どうしたら自動販売機を使いたくなるか」と考えて自動販売機の模型を作成した。子どもの思考にアプローチする教具を考えることの大切さを感じた。

本実践を通して、「同じ学習活動を何度か繰り返す単元設定」にすることや、「生活年齢に応じた単元設定」にすることの大切さを実感した。児童は繰り返すことで学びが深まり、教師も繰り返すことでより良い指導・支援を考えることができるなど、指導と

評価を繰り返すことで、授業改善がなされていく。繰り返すうちに、自信を持ってできる場面や、身に付けたことを基に考える場面が増えていったため、「同じ学習活動を何度か繰り返す単元設定」にすることは、「主体的・対話的で深い学び」につなげるポイントであると考える。また、本単元では、まずは自分たちでパーティーを何度か繰り返すことで、パーティーのイメージを持つことや知識・技能の定着を図ることを目指した。自分たちが十分に楽しんだ後に、偶発的にお客さんが来られることで、「パーティーにお客さんが来てくれると楽しい」という気持ちを持つことができ、「誰かのため」という思いを持って、普段、関わりが少ない人にも関わっていくことができた。他者から喜ばれる経験に結び付ける単元設定が、小学部中学年段階の児童に適しており、必要な学びだと感じた。今後の授業実践においても、「同じ学習活動を何度か繰り返す単元設定」や「生活年齢に応じた単元設定」を大切にしていきたい。